

厚生労働科学研究費補助金（障害者政策総合研究事業）

分担研究報告書

障がい者が快適な日常生活を営むための食事提供等の実態把握及び
改善手法の検証等のための研究

3. 実施可能性調査：

通所事業所障害児者のための栄養アセスメント・モニタリングシートの作成

研究要旨

【背景・目的】通所事業所障害児者における栄養ケア・マネジメント（以下 NCM）の体制づくりが求められている。本研究は、管理栄養士が多職種と連携して NCM に取り組むためのアセスメント・モニタリングシート（以下 AMS）の作成を目的とした。

【対象・方法】①AMS 試案作成：障害児者支援に関わる栄養、口腔嚥下、リハビリテーション、社会福祉の専門家による検討会議を経て試案Ⅰ（栄養専門職以外の専門職用：6 大項目 32 小項目）、試案Ⅱ（栄養専門職用：5 大項目 35 小項目）、を作成した。②AMS 試案項目の合意形成：合意形成手法はデルファイ法を用いた。調査内容は試案Ⅰ・Ⅱ各小項目の「実施の重要性（4 件法）」ならびに「実施の有無」とした。障害児者通所事業所（児：18 か所、者：16 か所）へ調査票を送付し、関連の専門職（試案Ⅰ：医師、看護師、生活指導員、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、試案Ⅱ：管理栄養士・栄養士）より回答を得た。各小項目の「実施の重要性」において、「とても当てはまる」＋「やや当てはまる」の回答が合計 80%以上を合意基準として採用項目の選定を行った。（神奈川県立保健福祉大学研究倫理審査会承認 保大第 17-67）。

【結果】試案Ⅰは 6 大項目小 36 項目（うち児のみ 9 小項目）、試案Ⅱは 5 大項目 35 小項目が選定された。しかし、各項目の実施率は、試案Ⅰ：最終平均 74.3±17.9%（初回 56.5±20.0%）、試案Ⅱ：平均 56.4±14.5%であり、項目間の実施率の差は大きかった。

【考察】通所事業所利用障害児者の支援に関わる多職種によるコンセンサスを得て作成された AMS は、今後の在宅障害児者の栄養障害に関わる問題把握に活用され、NCM の推進に寄与することが期待された。一方、各項目の実施率を高めるための啓発・研修等の実施が必要であると考えられる。

A. 研究目的

障害者及び障害児（以下、障害児者）が快適な日常生活を営み、一人ひとりの自己実現をめざして健康・栄養状態を改善維持し、その「食べる楽しみ」を支援することは重要

である¹⁾。

平成 21 年 3 月から、施設の障害児者の身体状況・栄養状態に着目し、管理栄養士が多職種と協働して個別の栄養ケア計画に基づ

き、適切な食事提供・食支援や栄養相談に取り組む栄養ケア・マネジメント(栄養マネジメント加算)が導入された^{2,3)}。しかし、その取り組みは今もなお遅れている。一方、障害者総合支援法の再編により、障害者の地域支援体制の強化が一層はかられ、通所事業所は、その重要な支援拠点となったが、通所サービスには栄養ケア・マネジメントは導入されていない。

障害者には、低栄養と過剰栄養の2重負荷が存在することを報告している⁴⁾。さらに、障害者では摂食嚥下機能障害や偏食、感覚過敏等の様々な食事時の徴候・症状が観察されている^{5,6)}。一方、平成27年から、介護保険施設においては、このような摂食嚥下障害や食事時徴候・症状に対応した適切な食事提供や食事支援を行うために、管理栄養士や多職種による食事時の観察(ミールラウンド)やカンファレンスが導入された(経口維持加算)⁷⁻⁹⁾。

本研究事業は、通所事業所利用障害児者の身体状況、栄養状態、食事時の徴候・症状に対応した個別の栄養ケア計画に基づく食事提供や食事支援の体制やあり方、さらには本人・家族の生活に合わせた栄養食事相談の基本的な方法について具体的に提示することを目的としたものである。

そこで、本分担研究は、多職種の分担研究者により作成された通所事業所利用障害児者のための栄養アセスメント・モニタリングシート試案の項目からデルファイ法を用いてコンセンサスを得た項目を選定し、多職種チームによるNCMへの活用に寄与することを目的とした。

B. 研究方法

1) 研究デザイン

専門家の意見を集約するコンセンサスメソッドであるデルファイ法¹⁰⁾を用いた。

2) 対象事業所と回答依頼対象者

多職種の分担研究者より推薦・内諾を得た障害者通所事業所18か所、障害児通所事業所16か所(計34か所)の管理者、専門職(管理栄養士・栄養士、医師、看護師、生活指導員(社会福祉士や介護福祉士)、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士(職種重複可、管理栄養士がいる場合には含める))を対象とした。

3) 調査方法(情報提供を受ける手順)

通所事業所利用障害児者のための栄養アセスメント・モニタリングシート試案(以下シート試案)は、先行して実施された事業所訪問インタビュー調査結果を参照して研究班の障害児者のケアに関わった経験のある栄養、口腔機能、身体機能、社会福祉分野の専門職の研究委員の5回の検討会議を経て作成した。調査は無記名調査票一式を対象事業所の管理者宛に郵送して実施した。

① フェースシート

フェースシートは、対象事業所の属性に関する項目(記入者(管理者、管理者以外の職員)、法人種、定員数、サービス内容、障害種別、職員体制(常勤職員・非常勤職員の人数と職種)、管理栄養士・栄養士との関わりの有無)とした。

② シート試案

シート試案はⅠ.管理栄養士・栄養士以外の職種に回答を求める項目及びⅡ.管理栄養士・栄養士に回答を求める項目から、以下のような<大項目内容>:小項目数により

構成された。Iは、＜1.身体状況＞：6項目、＜2.身体機能＞：1項目、＜3.成長（児）＞：6項目、＜4.栄養評価＞：6項目、＜5.摂食機能＞：4項目、＜6.環境整備＞：9項目、小項目全32項目、IIは、＜7.食事の把握＞：7項目、＜8.栄養量の把握＞：4項目、＜9.栄養評価＞：7項目、＜10.栄養介入＞：10項目、＜11.養育者・介助者への指示・連絡＞：7項目、小項目全35項目から構成された（表2、3）。

各項目については、現行の＜実施＞の「有・無」及び、障害児、身体障害、知的障害、精神障害別に＜該当＞の「有・無」、該当有の障害種別の＜実施することが重要であるか＞について、「とても当てはまる」「やや当てはまる」「あまり当てはまらない」「全く当てはまらない」の4つを点数化して評価するとともに、各項目にコメントが記載できるように作成した。

シート試案は、デルファイ法により、研究対象者からのコンセンサスを得て、当該シート試案の構成項目の選定を行った。なお、シート試案Iは2回、シート試案IIは1回の調査となった。

4) 解析方法

フェースシートは、各項目別に基本属性として単純集計を行った。

シート試案の無記名調査票から作成されたデータベースは、障害種別に4件法で回答得た各項目について、全体及び障害種別毎に1から4の得点のうち、3もしくは4と回答した割合を内容妥当性として算出し、80%以上^{10,11)}の項目から最終的な選定候補項目を把握し、専門職の研究委員が再度検討後、シート試案（改訂版）を成果として作

成した。

集計解析にあたっては、SPSS statistics ver.25を用いた。

5) 倫理面への配慮

本調査への回答は、研究対象者の自由意思に委ねられた無記名調査であり、個人情報には取り扱われない。さらに無記名調査票にはIDを付していないため、事業所及び対象者が特定されることはない。

事業所送付名簿、回収された調査用紙及びデータベースは、神奈川県立保健福祉大学内の鍵のかかる保管庫に保管され、データベースの作成及び解析は神奈川県立保健福祉大学内のPCにて実施された。

本研究は、神奈川県立保健福祉大学研究倫理審査委員会の承認を得て実施した（承認番号：保大第17-67）。

C. 研究結果

1) 事業所概要（表1）

回答事業所は27事業所（回収率79.4%）であった。

○記入者

事業所概要の記入者は、管理者が63.0%であった。

○運営主体

事業所の運営主体は、社会福祉法人が81.5%であった。

○事業所定員（人/日）

定員は30人未満/日が51.9%、次いで30～80人/日が40.7%であった。

○主たる支援

主たる支援は、生活介護が44.4%、次いで放課後等デイサービスが11.1%であった。

○利用対象者の障害種（重複回答可）

障害種は、知的障害が 70.4%、次いで身体障害が 51.9%であった。

○職員数

常勤職員は 10 人以下が 44.4%、職種別では社会福祉士が 70.4%と最も多かった。

非常勤職員は 10 人以下が 70.4%、職種別では看護師が 29.6%と最も多かった。

○管理栄養士・栄養士の関わりについて

関わりがあると答えた事業所は 81.5%であり、関割があった職種は管理栄養士が 48.1%であった。

2) 第 1 回調査 (表 2、3)

○シート試案 I (管理栄養士・栄養士以外) (表 2)

回答の得られた 99 名のうち、94 名を解析対象者とした (有効回答率 94.9%)。

各項目について実施することが重要であるかの質問に対し、「やや当てはまる」、「とても当てはまる」と回答した割合 (内容妥当性) が高かった項目は、全体では「服薬状況に関する情報を収集し記録している」、「入院歴・既往歴について把握し必要に応じて記録している」、「養育者等の相談に対するニーズを把握する努力をしている」の 3 項目が 9 割以上であり、8 割以上の項目は 19 項目であった。一方、「定額・座位・萌芽等月齢相当の発育状況が記録されている」、「成長曲線に児の身長・体重をプロットして記録している」の 3 項目は 6 割以下であり、障害種別に見ると、障害児と障害児以外で重要度に偏りが認められ、障害児における内容妥当性は約 9 割であった。

実施率については、重要度の高さに関わらず、「服薬状況に関する情報を収集し記録している」、「入院歴・既往歴について把握し

必要に応じて記録している」、「養育者等の相談に対するニーズを把握する努力をしている」の 3 項目以外は全体的に実施率が低かった。

○シート試案 II (管理栄養士・栄養士) (表 3)

回答の得られた 17 名を解析対象者とした (有効回答率 100%)。

実施することが重要であるかの質問に対し、「やや当てはまる」、「とても当てはまる」と回答した割合 (内容妥当性) は、全体において、35 項目すべての項目は 8 割以上で、「食事の把握」の 7 項目、「栄養量の把握」4 項目、「栄養評価」の 7 項目はすべて 90%以上の同意率であった。ただし、障害種別にみると、精神障害において「発熱や下痢といった低栄養のリスクとなる症状・徴候を把握している」、「栄養補助食品や調理器具などの紹介を行っている」、「養育者や介護者の食事負担軽減に向けて助言提案を行っている」の 3 項目が 7 割以下であった。

実施率については、「適正な食事形態について把握している」、「食事内容の偏りについて把握している (好き嫌い)」、「水分の摂取方法・摂取量について把握している」の 3 項目は 8 割以上であったが、24 項目は 6 割以下で、特に「体格からエネルギー・たんぱく質の過不足評価をしている」「消化・吸収・代謝の状況について概ね把握している」「特定の栄養素の過不足に対し補給量の調整の実施もしくは指導をしている」「水分摂取の方法並びに目標摂取量について調整・指導している」の 4 項目は実施率が 4 割以下であった。

3) 第2回調査(表4)

○シート試案I(管理栄養士・栄養士以外) (表4)

回答の得られた79名のうち、79名を解析対象者とした(有効回答率100%)。

第1回調査と同様に各項目について実施することが重要であるかの質問に対し、「やや当てはまる」、「とても当てはまる」と回答した割合(内容妥当性)を求めた。内容妥当性は第1回目よりもいずれの項目に対しても5~20%上昇しており、第1回目ではつきが多くみられた成長や環境整備に関する項目についてはその割合が大きく上昇し、すべての項目で8割以上となった。しかし、障害種別に見ると、障害児と障害児以外で重要度に偏りや、精神障害では他の障害種別に比較して栄養評価や摂食機能にかかわる項目で低いものが多く、「食事形態の適正化に対する評価が実施されている」、「食具や食器の使い方について把握している」の2つの項目の割合がそれぞれ55.2%、58.6%と特に低かった。一方で「服薬状況に関する情報を収集している」、「入院歴・退院歴について把握し必要に応じて記録している」、「家族等の相談に対するニーズを把握する努力をしている」、「経済状況の概要について把握し必要に応じて記録している」といった項目は、他の障害種目同様に高い割合となった。

実施率については、重要度の高さに関わらず、「体温に関する日々の記録をしている」、「服薬状況に関する情報を収集し記録している」、「入院歴・既往歴について把握し必要に応じて記録している」、「家族の療育支援に対する不安や悩みなどの情報収集することに努めている」の4項目の実施率は

高く、その他の項目は総じて実施率が低かったが、特に「口腔内環境について把握記録している」、「食事の観察に管理栄養士・栄養士が参加している」、「食事内容が把握・記録されている」、「特定の栄養素の過不足の把握と記録がされている」、「家族が食事の重要性について認識しているか確認している」の食事や栄養にかかわる5項目は実施率が50%台であった。

4) シート試案Iに対する第1回・第2回調査の比較(表5、6)

○アセスメント・モニタリングシートIの項目の内容妥当性について

シート試案Iの第1回調査結果に基づいて、専門職の研究委員が検討を行い、障害児に特有な項目の別建てするとともに、それぞれの項目が栄養の専門職以外にもわかりやすい項目の主旨に影響しないような文言に変更したことで、障害種別にかかわらず同意率は上昇した。しかし、精神障害では、身体機能や栄養評価、摂食機能に対する内容妥当性が1回目・2回目ともに低く、変化がみられなかった。しかし、「排便状況の記録をしている」、「感覚過敏に対する定期的評価を行っている」、「養育者等から家庭内でのこどもの様子の情報収集が定期的に行われている」の3項目がそれぞれ「便秘や下痢菜緒の排便状況を把握している」(58.5%→79.3%)、「感覚過敏について把握している」(56.1%→72.4%)、「養育者から家庭内での様子について情報収集を行っている」(56.1%→80.0%)といずれも大きく上昇していた。

○アセスメント・モニタリングシートIの

項目の実施状況について

シート試案Ⅰは、1回目・2回目ともに各項目の実施率は低く、両回ともに90%を超える実施率である項目は、「服薬状況に関する情報を収集し記録している」、「入院歴・既往歴について把握し必要に応じて記録している」の2項目のみであった。一方、比較的实施率が高かったシート試案Ⅱに対する回答においても、実施率の70%以下の低い実施率の項目は、「BMIなどの体格が把握されている」、「口腔内環境について把握記録している」、「食事量の把握と記録がされている」、「食事形態の適正化に対する評価がされている」、「食事の観察が実施されている」、「食事の観察に管理栄養士・栄養士が参加している」、「食事内容が把握・記録されている」、「特定の栄養素の過不足の把握と記録がされている」、「感覚過敏について把握している」、「家族が食事の重要性について認識している」、「経済状況の概要について把握し必要に応じて記録している」の11項目であった。また、障害児のみの項目において、実施率が低かった項目は「身長が定期的に計測され記録されている」、「年齢・月齢標準のKaup指標・ローレル指標、BMIが計算されている」、「成長曲線に児の身長・体重をプロットして記録している」といった栄養評価にかかわる3項目であった。

4) アセスメント・モニタリングシートの選定項目(表7)

第1回及び第2回調査により、試案Ⅰは6大項目小36項目(うち児のみ9小項目)、試案Ⅱは5大項目35小項目が選定された。

D. 考察

今回の調査対象となった施設では、管理栄養士もしくは栄養士の常勤職員としての配置がそれぞれ22.2%、14.8%と低いものの、管理栄養士・栄養士との関わりがあると答えた施設は全体の80%を超えており、栄養専門職へのニーズの高さを改めて認識する結果となった。

管理栄養士・栄養士を対象としたアセスメント・モニタリングシート試案Ⅱの項目のそれぞれにおいて、「実施することが重要である」という設問に対し、「当てはまる」、「やや当てはまる」との回答が80%を超えており、すべての項目が障害児者のアセスメント・モニタリング項目として内容妥当性が高いことが明らかになった。障害児者とかかわりのある管理栄養士・栄養士は、栄養管理にかかわる専門職として、アセスメント・モニタリングの必要性について認識が高いと考えられた。さらに管理栄養士・栄養士では、34項目のうち14項目(41%)の内容妥当性が100%であった。

管理栄養士・栄養士以外の職種を対象としたアセスメント・モニタリングシート試案Ⅰの2回目の結果においても、すべてのアセスメント・モニタリング項目に対し、内容妥当性は80%以上であったが、障害種別によってその割合には差がみられていた。中でも精神障害では内容妥当性が低い項目も多かったが、この相違が障害特性によるものであるのか、回答者数が少ないことによる影響を受けているのかは不明であり、今後さらなる詳細な調査が必要となると考えられた。

栄養ケア・マネジメントが定着していない通所事業所のために、各専門職の研究委員が選定したアセスメント・モニタリング

試案の項目は、本調査を通して現場の専門職種からコンセンサスが得られた。今後、これらの項目を用いた栄養ケア・マネジメントの実施率が高まることによって、より適切でポイントを絞ったアセスメント・モニタリングシートへと改変されることが期待される。

いずれにしても、障害児者の通所施設は在宅での障害児者ケアを反映していると考えられ、このアセスメント・モニタリングシートは、在宅での障害児者の NCM の活用が可能である。障害児者の通所事業所は小規模なところも多く、利用者の栄養管理は十分ではない。障害児者の健康・栄養状態を改善・維持するためには早急な何らかの制度化が求められる。この喫緊の課題に対応するためには、管理栄養・栄養士以外の職員であっても、今回作成された多職種によるチームのためのアセスメント・モニタリングシートを活用した栄養ケアの実施あるいは当該シート活用のための支援が必要であると考えられる。この多職種による栄養ケアの継続によって、在宅ケアを受けている障害児者の栄養障害の早期発見・早期介入の体制整備に繋がり、障害児者の生活の質の向上に寄与すると考えられる。

E. 結論

試案された障害児・者に対するアセスメント・モニタリングシートは、管理栄養士・栄養士に加えて、その他の障害児者のケアにかかわる職員からコンセンサスが得られたシートとして、障害児者の栄養ケアのツールとして継続的な利用が可能である。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

1. 論文発表

なし

2. 学会発表

・藤谷朝実、田村文誉、笹田哲、行實志都子、飯田綾香、高田健人、大和田浩子、杉山みち子、中村丁次：通所事業所利用障害児・者の栄養ケア・マネジメントのための「栄養アセスメント・モニタリングシート」. 第 42 回日本臨床栄養学会総会・第 41 回日本臨床栄養協会総会・第 18 回大連合大会（新潟），2020.10

H. 知的財産権の出願・登録状況

（予定を含む。）

なし

引用文献

- 1) 藤谷朝実、堤ちはる、杉山みち子、小山秀夫編著.子どもの「食べる楽しみ」を支援する:特別な配慮を必要とする子どもの栄養ケア・マネジメントのために.日本健康・栄養システム学会監修,建帛社,2018,176.
- 2) 障害者総合支援法に基づく指定障害福祉サービス等及び基準該当障害福祉サービスに要する費用の額の算定に関する基準（厚生労働省告示第 523 号 平成 18 年 9 月 29 日告示）.
- 3) 栄養マネジメント加算及び経口移行加算等に関する事務処理手順例及び様式例の提示について（障障発第 0331002

- 号) .平成 21 年 3 月 31 日.
- 4) Ohwada H, Nakayama T, Tomono Y, Yamanaka K. Predictors, including blood urine anthropometry, and nutritional indices, of all-cause mortality among institutionalized individuals with intellectual disability. *Res Dev Disabil.* 2013; 34(1):650-5.
 - 5) 加藤美和、滝沢綾乃、濱田秋平、細野未香子、川畑明日香、藤谷朝実、高田健人、長瀬香織、臼井正樹、杉山みち子(2018). 神奈川県指定障がい者支援施設における栄養ケア・マネジメントに関する研究施設調査. *日本健康・栄養システム学会雑誌* 18(1).133.
 - 6) 川畑明日香, 高田健人, 長瀬香織, 濱田秋平, 藤谷朝実, 杉山みち子. 神奈川県指定障害者支援施設入所者における低栄養及び食事形態と入院との関係. *日本健康・栄養システム学会雑誌*.2019 : 19 : 2 - 12.
 - 7) 杉山みち子・高田健人・小山秀夫・加藤昌彦・葛谷雅文・榎裕美・高田和子・大原里子・鎌倉やよい・宇田淳・野地有子・木嶋亜沙美・岡本節子・苅部康子 他.平成 26 年度厚生労働省老人保健事業推進等補助金 (老人保健健康増進等事業分) 『高齢者保健福祉施策の推進に寄与する調査研究事業』施設入所・退所者の経口維持のための栄養管理・口腔管理体制の整備とあり方に関する研究報告書.一般社団法人日本健康・栄養システム学会,2015.
 - 8) 藤川亜沙美・高田健人・長瀬香織・松本菜々・榎裕美・高田和子・大原里子・小山秀夫・杉山みち子(2018).介護保険施設に入所する高齢者におけるミールラウンド体制と入院、死亡との関連. *日本健康・栄養システム学会誌*.18(2).12-20.
 - 9) 藤川亜沙美・高田健人・長瀬香織・松本菜々・榎裕美・高田和子・大原里子・小山秀夫・杉山みち子(2018).介護保険施設に入所する高齢者における入院、死亡に関わる低栄養とミールラウンドによる観察項目との関連. *日本健康・栄養システム学会誌*.18(2).21-29.
 - 10) 梶井文子、杉山みち子、葛谷雅文. 介護老人福祉施設における高齢者の最期まで「食べること」を支援するための、医師・管理栄養士・看護師・介護職が実施する栄養ケア・マネジメント内容の妥当性の検討：デルファイ調査. *日本健康・栄養システム学会誌*. 13(2)、25-36、2013
 - 11) Polit DF, Beck CT, Owen SV. Is the CVI an acceptable indicator of content Validity? Appraisal and recommendations, *Research in Nursing & Health.* 2007; 30: 459-467.

表1-1) 事業所調査票の回答者

	度数	パーセント
管理者	17	63.0
非管理者	9	33.3
記載なし	1	3.7
合計	27	100.0

表1-2) 事業所の運営主体

	度数	パーセント
都道府県	2	7.4
社会福祉法人	22	81.5
医療法人	2	7.4
特定非営利法人	1	3.7
合計	27	100.0

表1-3) 各事業所の定員数分類

	度数	パーセント
30人未満	14	51.9
30～80人	11	40.7
200人以上	1	3.7
記載なし	1	3.7
合計	26	100.0

表1-4) 事業所の支援内容

	度数	パーセント
生活介護	12	44.4
児童発達支援センター	2	7.4
医療型児童発達支援センター	1	3.7
児童発達支援事業	2	7.4
放課後等デイサービス	3	11.1
その他	7	25.9
合計	27	100.0

表1-5) 障害種別分類（重複回答可）

	度数	パーセント*
障害児	9	33.3
身体障害	14	51.9
知的障害	19	70.4
精神障害	10	37

* 27施設に対する割合

表1-6) 職員数

	常勤職員数		非常勤職員数	
	度数	パーセント	度数	パーセント
10人以下	12	44.4	19	70.4
10～19人	7	25.9	1	3.7
20～29人	3	11.1	2	7.4
30～39人	1	3.7	3	11.1
40～49人	2	7.4	1	3.7
90人以上	2	7.4	0	0.0
不明	0	0.0	1	3.7
合計	27	100.0	27	100.0

表1-7) 職種別人数 (重複回答)

	常勤職員		非常勤職員	
	度数	パーセント*	度数	パーセント*
医師	3	11.1	6	22.2
歯科医師	1	3.7	0	0.0
社会福祉士	19	70.4	3	11.1
精神保健福祉士	8	29.6	1	3.7
介護福祉士	17	63.0	5	18.5
看護師	18	66.7	8	29.6
准看護師	5	18.5	3	11.1
保健師	1	3.7	0	0.0
管理栄養士	6	22.2	2	7.4
栄養士	4	14.8	0	0.0
理学療法士	6	22.2	5	18.5
作業療法士	4	14.8	4	14.8
言語聴覚士	3	11.1	3	11.1
臨床心理士	2	7.4	1	3.7
歯科衛生士	1	3.7	0	0.0
調理師	3	11.1	1	3.7
その他	10	37.0	11	40.7

* 全施設中でいると答えた割合

表2) 管理栄養士・栄養士以外の職員に対する結果（1回目）

表2-1) アセスメント・モニタリングシートⅠの回答者数（n=99名）

施設種別	延べ 回答者
障害児	31
身体障害	52
知的障害	79
精神障害	41
無回答	5
計	208

表2-2) 重複回答者数

重複回答数	人数
1施設	27
2施設	28
3施設	36
4施設	3
無回答	5
	99

表2-3) アセスメント・モニタリングシートI (管理栄養士・栄養士以外)の項目の内容妥当性

		回答数	障害種別					
			全体	障害児	身体障害	知的障害	精神障害	
1. 身体状況	a 身長・体重等の計測が定期的 に実施され記録されている	200	人数 %	167 83.5%	27 93.1%	47 90.4%	66 84.6%	27 65.9%
	b 排便状況の記録(便性と回数 の記録)をしている	201	人数 %	156 77.6%	27 90.0%	43 82.7%	62 79.5%	24 58.5%
	c 体温に関する日々の記録を している	201	人数 %	169 84.1%	26 86.7%	47 90.4%	65 83.3%	31 75.6%
	d 服薬状況に関する情報を 収集し記録している	202	人数 %	191 94.6%	29 96.7%	51 98.1%	75 94.9%	36 87.8%
	e 入院歴・既往歴について 把握し必要に応じて記録 している	202	人数 %	196 97.0%	29 96.7%	52 100.0%	76 96.2%	39 95.1%
	f 口腔内環境(歯のはえ方、 虫歯・歯周病、口腔内 衛生)*について把握し 記録している	201	人数 %	175 87.1%	28 93.3%	49 94.2%	67 85.9%	31 75.6%
2. 身体機能	a 身体機能(姿勢・車いすの 角度)の確認を定期的 に実施し記録している	187	人数 %	136 72.7%	23 85.2%	46 90.2%	51 71.8%	16 42.1%
3. 成長	a 身長が定期的 に計測され記録されている	150	人数 %	97 64.7%	27 93.1%	23 62.2%	34 64.2%	13 41.9%
	b 体重が定期的 に計測され記録されている	151	人数 %	119 78.8%	27 93.1%	32 86.5%	43 79.6%	17 54.8%
	c 月齢・月齢標準のKaup 指数、ローレル指数、 BMIが計算されている	148	人数 %	97 65.5%	25 86.2%	24 66.7%	36 67.9%	12 40.0%
	d 体重変化量(ある期間 内の体重の増加・減少) が把握されている	150	人数 %	121 80.7%	28 96.6%	32 86.5%	42 79.2%	19 61.3%
	e 定額・座位・萌芽等 月齢相当の発育状況が 記録されている	147	人数 %	82 55.8%	27 93.1%	21 58.3%	27 51.9%	7 23.3%
	f 成長曲線に児の身長・ 体重をプロットして 記録している	142	人数 %	73 51.4%	25 89.3%	18 51.4%	25 49.0%	5 17.9%
4. 栄養評価	a 食事摂取量の把握と 記録がされている(提供 量の何割程度摂取でき ているか)	202	人数 %	166 82.2%	27 90.0%	46 88.5%	67 84.8%	26 63.4%
	b 食事形態の適正化に 対する評価が実施され ている(食具や食器への 対応も含めて)	202	人数 %	165 81.7%	28 93.3%	48 92.3%	66 83.5%	23 56.1%
	c 食事摂取中の状況 評価(ミールラウンドの 実施)が実施されてい る	199	人数 %	152 76.4%	26 89.7%	44 84.6%	60 76.9%	22 55.0%
	d 食事内容が把握・ 記録されている(食事 評価)	202	人数 %	165 81.7%	28 93.3%	46 88.5%	66 83.5%	25 61.0%
	e 特定の栄養素の過不 足把握と記録がされて いる(好き嫌いもしくは 障害特有の理由によ って起こる過不足を 把握している)	202	人数 %	162 80.2%	26 86.7%	44 84.6%	66 83.5%	26 63.4%
	f 栄養状態に影響を 及ぼすような既往症等 の記録がされている	202	人数 %	176 87.1%	27 90.0%	47 90.4%	70 88.6%	32 78.0%
5. 摂食機能	a 食事時の姿勢・体位 について評価してい る	202	人数 %	158 78.2%	28 93.3%	47 90.4%	63 79.7%	20 48.8%
	b 食具や食器の使い 方やその調整を行っ ている	201	人数 %	169 84.1%	29 96.7%	49 94.2%	67 85.9%	24 58.5%
	c 感覚過敏に 対する定期的評価 を行っている	200	人数 %	154 77.0%	26 89.7%	45 86.5%	60 76.9%	23 56.1%
	d 摂食問題に 対しその対応策を 考え実践してい る	202	人数 %	173 85.6%	29 96.7%	49 94.2%	67 84.8%	28 68.3%
6. 環境整備	a 養育者等から 家庭内での子供の 様子の情報収集が 定期的に行われて いる	202	人数 %	178 88.1%	29 96.7%	48 92.3%	71 89.9%	30 73.2%
	b 養育者の 子育てに対する 気持ちなどの 情報収集する ことに努めて いる	202	人数 %	167 82.7%	29 96.7%	44 84.6%	68 86.1%	26 63.4%
	c 養育者等 による虐待 行為の有無 を確認して いる	202	人数 %	176 87.1%	29 96.7%	49 94.2%	69 87.3%	29 70.7%
	d 養育者等 の相談に 対するニーズ を把握する 努力をして いる	202	人数 %	182 90.1%	29 96.7%	49 94.2%	73 92.4%	31 75.6%
	e 家庭での 食事環境に ついて把握 し記録して いる	202	人数 %	160 79.2%	28 93.3%	45 86.5%	64 81.0%	23 56.1%
	f 養育者が 子どもの食 行動や食事 内容に不安 や悩みの有 無がないか どうか確認 している	202	人数 %	164 81.2%	29 96.7%	45 86.5%	66 83.5%	24 58.5%
	g 養育者が 子どもの食 事量や食事 内容に興 味の有無 を持っている かどうか 確認して いる	201	人数 %	158 78.6%	29 96.7%	43 82.7%	64 82.1%	22 53.7%
	h 養育者等 の食に 対する知識 や認識の有 無につ いて確認 している	202	人数 %	139 68.8%	28 93.3%	38 73.1%	54 68.4%	19 46.3%
	i 経済状況 の概要に ついて把握 し必要に 応じて 記録して いる	202	人数 %	170 84.2%	28 93.3%	43 82.7%	66 83.5%	33 80.5%

表2-4) アセスメント・モニタリングシートⅠ（管理栄養士・栄養士以外）の項目の実施数及び実施率

	回答数	全体	障害種別					
			障害児	身体障害	知的障害	精神障害	施設種別不明	
1. 身体状況	a 身長・体重等の計測が定期的に実施され記録されている	200	実施数 139 実施率 69.2%	23 79.3%	38 74.5%	58 76.3%	19 47.5%	1 20.0%
	b 排便状況の記録（便性と回数の記録）をしている	201	実施数 123 実施率 61.2%	22 75.9%	36 70.6%	50 65.8%	15 37.5%	0 0.0%
	c 体温に関する日々の記録をしている	201	実施数 154 実施率 76.6%	24 82.8%	42 82.4%	62 81.6%	25 62.5%	1 20.0%
	d 服薬状況に関する情報を収集し記録している	202	実施数 181 実施率 90.0%	28 96.6%	47 92.2%	69 90.8%	32 80.0%	5 100.0%
	e 入院歴・既往歴について把握し必要に応じて記録している	202	実施数 193 実施率 96.0%	29 100.0%	48 94.1%	73 96.1%	38 95.0%	5 100.0%
	f 口腔内環境（歯のはえ方、虫歯・歯周病、口腔内衛生）*について把握し記録している	201	実施数 116 実施率 58.0%	19 65.5%	32 62.7%	49 64.5%	16 41.0%	0 0.0%
2. 身体機能	a 身体機能（姿勢・車いすの角度）の確認を定期的に実施し記録している	187	実施数 86 実施率 43.9%	18 66.7%	28 54.9%	31 41.9%	8 20.0%	1 25.0%
3. 成長	a 身長が定期的に計測され記録されている	150	実施数 53 実施率 34.0%	11 39.3%	11 28.9%	21 38.9%	10 32.3%	0 0.0%
	b 体重が定期的に計測され記録されている	151	実施数 100 実施率 64.1%	22 78.6%	27 71.1%	38 70.4%	12 38.7%	1 20.0%
	c 月齢・月齢標準のKaup指数、ローレル指数、BMIが計算されている	148	実施数 54 実施率 35.1%	15 53.6%	13 35.1%	21 39.6%	5 16.1%	0 0.0%
	d 体重変化量（ある期間内の体重の増加・減少）が把握されている	150	実施数 95 実施率 61.7%	21 75.0%	25 67.6%	36 67.9%	12 38.7%	1 20.0%
	e 定額・座位・萌芽等月齢相当の発育状況が記録されている	147	実施数 40 実施率 26.7%	16 59.3%	10 27.0%	13 25.5%	1 3.3%	0 0.0%
	f 成長曲線に児の身長・体重をプロットして記録している	142	実施数 4 実施率 2.7%	3 11.1%	0 0.0%	1 1.9%	0 0.0%	0 0.0%
4. 栄養評価	a 食事摂取量の把握と記録がされている（提供量の何割程度摂取できているか）	202	実施数 120 実施率 59.7%	20 69.0%	37 72.5%	49 64.5%	14 35.0%	0 0.0%
	b 食事形態の適正化に対する評価が実施されている（食具や食器への対応も含めて）	202	実施数 121 実施率 60.2%	20 69.0%	37 72.5%	49 64.5%	15 37.5%	0 0.0%
	c 食事摂取中の状況評価（ミールラウンドの実施）が実施されている	199	実施数 86 実施率 43.2%	17 60.7%	26 51.0%	35 46.7%	8 20.0%	0 0.0%
	d 食事内容が把握・記録されている（食事評価）	202	実施数 111 実施率 55.2%	22 75.9%	31 60.8%	45 59.2%	13 32.5%	0 0.0%
	e 特定の栄養素の過不足の把握と記録がされている（好き嫌いもしくは障害特有の理由によっておこる過不足を把握している）	202	実施数 64 実施率 32.3%	13 44.8%	18 36.0%	26 34.7%	7 17.9%	0 0.0%
	f 栄養状態に影響を及ぼすような既往症等の記録がされている	202	実施数 132 実施率 65.7%	22 75.9%	34 66.7%	52 68.4%	23 57.5%	1 20.0%

表2-4) アセスメント・モニタリングシートⅠ（管理栄養士・栄養士以外）の項目の実施数及び実施率

	回答数	全体	障害種別					施設種別不明
			障害児	身体障害	知的障害	精神障害		
5. 摂食機能	a 食事中の姿勢・体位について評価している	202	実施数 111 実施率 (%) 55.2%	22 75.9%	34 66.7%	43 56.6%	12 30.0%	0 0.0%
	b 食具や食器の使い方やその調整を行っている	201	実施数 147 実施率 (%) 73.1%	26 89.7%	42 82.4%	59 77.6%	20 50.0%	0 0.0%
	c 感覚過敏に対する定期的評価を行っている	200	実施数 75 実施率 (%) 37.7%	17 60.7%	21 41.2%	31 41.3%	6 15.0%	0 0.0%
	d 摂食問題に対しその対応策を考え実践している	202	実施数 150 実施率 (%) 74.6%	27 93.1%	40 78.4%	60 78.9%	23 57.5%	0 0.0%
6. 環境整備	a 養育者等から家庭内での子供の様子の情報収集が定期的に行われている	202	実施数 147 実施率 (%) 73.9%	28 96.6%	40 78.4%	56 74.7%	22 55.0%	1 25.0%
	b 養育者の子育てに対する気持ちなどの情報収集することに努めている	202	実施数 145 実施率 (%) 72.9%	27 93.1%	39 76.5%	56 74.7%	22 55.0%	1 25.0%
	c 養育者等による虐待行為の有無を確認している	202	実施数 152 実施率 (%) 76.0%	26 89.7%	42 82.4%	56 74.7%	25 62.5%	3 60.0%
	d 養育者等の相談に対するニーズを把握する努力をしている	202	実施数 176 実施率 (%) 88.0%	29 100.0%	46 90.2%	68 90.7%	30 75.0%	3 60.0%
	e 家庭での食事環境について把握し記録している	202	実施数 82 実施率 (%) 41.0%	20 69.0%	21 41.2%	32 42.7%	9 22.5%	0 0.0%
	f 養育者が子どもの食行動や食事内容に不安や悩みの有無がないかどうか確認している	202	実施数 104 実施率 (%) 52.3%	27 93.1%	27 52.9%	38 50.7%	12 30.0%	0 0.0%
	g 養育者が子どもの食事量や食事内容に興味の有無を持っているかどうか確認している	201	実施数 92 実施率 (%) 46.2%	25 86.2%	22 43.1%	35 46.7%	10 25.0%	0 0.0%
	h 養育者等の食に対する知識や認識の有無について確認している	202	実施数 75 実施率 (%) 37.7%	20 69.0%	19 37.3%	29 38.7%	7 17.5%	0 0.0%
	i 経済状況の概要について把握し必要に応じて記録している	202	実施数 126 実施率 (%) 63.0%	20 69.0%	31 60.8%	44 58.7%	29 72.5%	2 40.0%

表3) 管理栄養士・栄養士に対する結果 (1回目)

表3-1) アセスメント・モニタリング
シートIIの回答者数 (n=17名)

施設種別	人数
障害児	4
身体障害	5
知的障害	7
精神障害	1
無回答	0
計	17

表3-2) 重複回答者数

重複回答数	人数
1施設	
2施設	
3施設	
4施設	
無回答	
	0

表3-3) アセスメント・モニタリングシートⅡ（管理栄養士・栄養士）の項目の内容妥当性

		回答数		総数	障害種類			
					障害児	身体障害	知的障害	精神障害
7. 食事の把握	a 自宅を含めた食事摂取量を概ね把握している	39	人数	39	9	9	15	6
			%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
	b 適正な食事形態について把握している	39	人数	39	9	9	15	6
			%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
	c 食事摂取時の介助について把握している（介助方法 食具・食器の調整）	39	人数	38	9	9	15	5
			%	97.4%	100.0%	100.0%	100.0%	83.3%
	d 食事内容の偏りについて把握している（好き嫌い）	39	人数	39	9	9	15	6
		%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
e 食事の回数・時間について把握している	39	人数	39	9	9	15	6	
		%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
f 食事環境の調整について把握している	39	人数	39	9	9	15	6	
		%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
g 水分の摂取方法・摂取量について把握している	39	人数	39	9	9	15	6	
		%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
8. 栄養量の把握	a 個別の必要栄養量について算出ができていない	39	人数	38	9	9	15	5
			%	97.4%	100.0%	100.0%	100.0%	83.3%
	b 平均的な摂取栄養量について把握できている	36	人数	38	9	9	14	6
			%	97.4%	100.0%	100.0%	93.3%	100.0%
c 好き嫌いもしくは疾患が理由となる特定の栄養素の過不足について把握できている	39	人数	37	9	9	14	5	
		%	94.9%	100.0%	100.0%	93.3%	83.3%	
d 水分の必要量を把握できている	39	人数	38	9	9	15	5	
		%	97.4%	100.0%	100.0%	100.0%	83.3%	
9. 栄養評価	a 身長・体重等の身体計測の継続的な評価と記録をしている	39	人数	38	9	9	15	5
			%	97.4%	100.0%	100.0%	100.0%	83.3%
	b 体格からエネルギー・たんぱく質の過不足評価をしている	39	人数	38	9	9	14	6
			%	97.4%	100.0%	100.0%	93.3%	100.0%
	c 食事や食品の偏りから不足する栄養素について把握ができていない	39	人数	39	9	9	15	6
			%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
	d 消化・吸収・代謝の状況について概ね把握している（消化器・代謝性の合併症等について把握できている）	39	人数	37	9	9	14	5
		%	94.9%	100.0%	100.0%	93.3%	83.3%	
e 発熱や下痢といった低栄養のリスクとなる症状・徴候を把握していない	39	人数	36	9	9	13	5	
		%	92.3%	100.0%	100.0%	86.7%	83.3%	
f 脱水のリスクについて把握していない（飲水方法、下痢・発熱の有無）	39	人数	37	9	9	13	6	
		%	94.9%	100.0%	100.0%	86.7%	100.0%	
g 栄養評価に関することが記録されていない	39	人数	38	9	9	14	6	
		%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	

表3-3) アセスメント・モニタリングシートⅡ（管理栄養士・栄養士）の項目の内容妥当性

		回答数		総数	障害種類			
					障害児	身体障害	知的障害	精神障害
10. 栄養介入	a エネルギーの過不足に対して補給量の調整を実施もしくは指導している	39	人数 %	39 100.0%	9 100.0%	9 100.0%	15 100.0%	6 100.0%
	b 特定の栄養素の過不足に対して補給量の調整を実施もしくは指導している	39	人数 %	36 92.3%	8 88.9%	9 100.0%	14 93.3%	5 83.3%
	c 摂食・嚥下機能に合わせて食事形状を調整もしくは指導している	39	人数 %	39 100.0%	9 100.0%	9 100.0%	15 100.0%	6 100.0%
	d 水分摂取の方法並びに目標摂取量について調整・指導している	39	人数 %	39 100.0%	9 100.0%	9 100.0%	15 100.0%	6 100.0%
	e 偏食等の食事の偏りについて調整・指導している	39	人数 %	37 94.9%	9 100.0%	8 88.9%	15 100.0%	5 83.3%
	f 発熱や下痢といった身体状況時の対応について調整・指導している	39	人数 %	34 87.2%	8 88.9%	8 88.9%	14 93.3%	4 66.7%
	g 食の楽しみに向けての対応や相談を行っている（外食相談やイベント参加等時の対応について）	39	人数 %	36 92.3%	9 100.0%	8 88.9%	14 93.3%	5 83.3%
	h 栄養補助食品や調理器具などの紹介を行っている	39	人数 %	34 87.2%	8 88.9%	9 100.0%	13 86.7%	4 66.7%
	i 養育者や介護者の食事負担軽減に向けて助言提案を行っている	39	人数 %	33 84.6%	8 88.9%	8 88.9%	13 86.7%	4 66.7%
	j 医師・看護師等多職種へ栄養摂取状態に関する情報の報告	39	人数 %	39 100.0%	9 100.0%	9 100.0%	15 100.0%	6 100.0%
11. 養育者への指導・報告	a 養育者・介護者に対し状態に応じた食べさせ方の指示・依頼をしている	39	人数 %	33 84.6%	7 77.8%	8 88.9%	13 86.7%	5 83.3%
	b 養育者・介護者に対し連絡ノート等への記録の依頼をしている	39	人数 %	33 84.6%	7 77.8%	8 88.9%	13 86.7%	5 83.3%
	c 養育者・介護者へ栄養摂取状態に関する情報の報告をしている	39	人数 %	39 100.0%	9 100.0%	9 100.0%	15 100.0%	6 100.0%
	d 養育者・介護者へ身体状況の変化についての報告の依頼をしている	39	人数 %	39 100.0%	9 100.0%	9 100.0%	15 100.0%	6 100.0%
	e 養育者・介護者へ食事内容の調整や変更協力の依頼をしている	39	人数 %	35 89.7%	8 88.9%	8 88.9%	14 93.3%	5 83.3%
	f 養育者・介護者へ食事摂取に関わる問題についての報告依頼をしている	39	人数 %	38 97.4%	9 100.0%	9 100.0%	15 100.0%	5 83.3%
	g 養育者・介護者へ食事や栄養状態にかかわる問題のついて個別に相談に応じることができるという情報の提示	39	人数 %	38 97.4%	9 100.0%	9 100.0%	15 100.0%	5 83.3%

表3-4) アセスメント・モニタリングシートII (管理栄養士・栄養士)の項目の実施数及び実施率

		回答数	実施数	総数	障害種類			
					障害児	身体障害	知的障害	精神障害
7. 食事の把握	a 自宅を含めた食事摂取量を概ね把握している	39	実施数 実施率 (%)	22 56.4%	5 55.6%	5 55.6%	9 60.0%	3 50.0%
	b 適正な食事形態について把握している	39	実施数 実施率 (%)	34 87.2%	8 88.9%	7 77.8%	13 86.7%	6 100.0%
	c 食事摂取時の介助について把握している(介助方法 食具・食器の調整)	39	実施数 実施率 (%)	31 79.5%	7 77.8%	7 77.8%	12 80.0%	5 83.3%
	d 食事内容の偏りについて把握している(好き嫌い)	39	実施数 実施率 (%)	32 82.1%	7 77.8%	7 77.8%	12 80.0%	6 100.0%
	e 食事の回数・時間について把握している	39	実施数 実施率 (%)	31 79.5%	8 88.9%	6 66.7%	12 80.0%	5 83.3%
	f 食事環境の調整について把握している	39	実施数 実施率 (%)	23 59.0%	4 44.4%	6 66.7%	9 60.0%	4 66.7%
	g 水分の摂取方法・摂取量について把握している	39	実施数 実施率 (%)	32 82.1%	7 77.8%	7 77.8%	12 80.0%	6 100.0%
8. 栄養量の把握	a 個別の必要栄養量について算出ができています	39	実施数 実施率 (%)	21 53.8%	4 44.4%	5 55.6%	8 53.3%	4 66.7%
	b 平均的な摂取栄養量について把握ができています	36	実施数 実施率 (%)	22 61.1%	3 37.5%	5 62.5%	9 64.3%	5 83.3%
	c 好き嫌いもしくは疾患が理由となる特定の栄養素の過不足について把握ができています	39	実施数 実施率 (%)	22 56.4%	3 33.3%	6 66.7%	9 60.0%	4 66.7%
	d 水分の必要量を把握ができています	39	実施数 実施率 (%)	16 41.0%	2 22.2%	5 55.6%	7 46.7%	2 33.3%
9. 栄養評価	a 身長・体重等の身体計測の継続的な評価と記録をしている	39	実施数 実施率 (%)	28 71.8%	5 55.6%	7 77.8%	11 73.3%	5 83.3%
	b 体格からエネルギー・たんぱく質の過不足評価をしている	39	実施数 実施率 (%)	14 35.9%	1 11.1%	5 55.6%	6 40.0%	2 33.3%
	c 食事や食品の偏りから不足する栄養素について把握ができています	39	実施数 実施率 (%)	20 51.3%	3 33.3%	5 55.6%	8 53.3%	4 66.7%
	d 消化・吸収・代謝の状況について概ね把握している(消化器・代謝性の合併症等について把握ができています)	39	実施数 実施率 (%)	14 35.9%	2 22.2%	5 55.6%	5 33.3%	2 33.3%
	e 発熱や下痢といった低栄養のリスクとなる症状・徴候を把握している	39	実施数 実施率 (%)	26 66.7%	6 66.7%	6 66.7%	10 66.7%	4 66.7%
	f 脱水のリスクについて把握している(飲水方法、下痢・発熱の有無)	39	実施数 実施率 (%)	26 66.7%	7 77.8%	5 55.6%	10 66.7%	4 66.7%
	g 栄養評価に関することが記録されている	39	実施数 実施率 (%)	17 43.6%	3 33.3%	4 44.4%	7 46.7%	3 50.0%

表3-4) アセスメント・モニタリングシートII (管理栄養士・栄養士)の項目の実施数及び実施率

		回答数	実施数	総数	障害種類			
					障害児	身体障害	知的障害	精神障害
10. 栄養介入	a エネルギーの過不足に対して補給量の調整を実施もしくは指導している	39	実施数 実施率 (%)	17 43.6%	2 22.2%	5 55.6%	7 46.7%	3 50.0%
	b 特定の栄養素の過不足に対して補給量の調整を実施もしくは指導している	39	実施数 実施率 (%)	14 35.9%	2 22.2%	5 55.6%	5 33.3%	2 33.3%
	c 摂食・嚥下機能に合わせて食事形状を調整もしくは指導している	39	実施数 実施率 (%)	30 76.9%	6 66.7%	8 88.9%	11 73.3%	5 83.3%
	d 水分摂取の方法並びに目標摂取量について調整・指導している	39	実施数 実施率 (%)	15 38.5%	3 33.3%	4 44.4%	7 46.7%	1 16.7%
	e 偏食等の食事の偏りについて調整・指導している	39	実施数 実施率 (%)	17 43.6%	3 33.3%	5 55.6%	6 40.0%	3 50.0%
	f 発熱や下痢といった身体状況時の対応について調整・指導している	39	実施数 実施率 (%)	21 53.8%	6 66.7%	4 44.4%	8 53.3%	3 50.0%
	g 食の楽しみに向けての対応や相談を行っている(外食相談やイベント参加等時の対応について)	39	実施数 実施率 (%)	23 59.0%	4 44.4%	6 66.7%	9 60.0%	4 66.7%
	h 栄養補助食品や調理器具などの紹介を行っている	39	実施数 実施率 (%)	22 56.4%	5 55.6%	6 66.7%	8 53.3%	3 50.0%
	i 養育者や介護者の食事負担軽減に向けて助言提案を行っている	39	実施数 実施率 (%)	18 46.2%	5 55.6%	4 44.4%	7 46.7%	2 33.3%
	j 医師・看護師等多職種へ栄養摂取状態に関する情報の報告	39	実施数 実施率 (%)	26 66.7%	3 33.3%	8 88.9%	10 66.7%	5 83.3%
11. 養育者への指導・報告	a 養育者・介護者に対し状態に応じた食べさせ方の指示・依頼をしている	39	実施数 実施率 (%)	16 41.0%	4 44.4%	4 44.4%	6 40.0%	2 33.3%
	b 養育者・介護者に対し連絡ノート等への記録の依頼をしている	39	実施数 実施率 (%)	20 51.3%	4 44.4%	5 55.6%	8 53.3%	3 50.0%
	c 養育者・介護者へ栄養摂取状態に関する情報の報告をしている	39	実施数 実施率 (%)	18 46.2%	6 66.7%	3 33.3%	8 53.3%	1 16.7%
	d 養育者・介護者へ身体状況の変化についての報告の依頼をしている	39	実施数 実施率 (%)	22 56.4%	5 55.6%	5 55.6%	9 60.0%	3 50.0%
	e 養育者・介護者へ食事内容の調整や変更協力の依頼をしている	39	実施数 実施率 (%)	20 51.3%	5 55.6%	4 44.4%	9 60.0%	2 33.3%
	f 養育者・介護者へ食事摂取に関わる問題についての報告依頼をしている	39	実施数 実施率 (%)	17 43.6%	5 55.6%	3 33.3%	8 53.3%	1 16.7%
	g 養育者・介護者へ食事や栄養状態にかかわる問題のついて個別に相談に応じることができるといった情報の提示	39	実施数 実施率 (%)	21 53.8%	5 55.6%	5 55.6%	8 53.3%	3 50.0%

表4) 管理栄養士・栄養士以外の職員に対する結果 (2回目)

表4-1) アセスメント・モニタリングシートⅠの回答者数 (n=79名)

施設種別	延べ 回答者
障害児	26
身体障害	40
知的障害	53
精神障害	31
無回答	0
計	150

表4-2) 重複回答者数

重複回答数	人数
1施設	34
2施設	21
3施設	22
4施設	2
無回答	0
	79

表4-3) アセスメント・モニタリングシートⅠ（管理栄養士・栄養士以外）の項目の内容妥当性

大項目	小項目	回答数	全体	障害種別			
				障害児	身体障害	知的障害	精神障害
1. 身体状況	a 身長・体重等の計測が定期的に実施され記録されている	145	人数 137 94.5%	25 100.0%	38 97.4%	50 96.2%	24 82.8%
	b BMIなどの体格が把握されている	145	人数 129 89.0%	22 88.0%	36 92.3%	48 92.3%	23 79.3%
	c 体重変化量（ある期間内の体重の増加・減少）が把握されている	145	人数 139 95.9%	25 100.0%	39 100.0%	49 94.2%	26 89.7%
	d 便秘や下痢などの排便状況を把握している	145	人数 136 93.8%	25 100.0%	38 97.4%	50 96.2%	23 79.3%
	e 体温に関する日々の記録をしている	146	人数 143 97.9%	25 100.0%	39 100.0%	51 98.1%	28 93.3%
	f 服薬状況に関する情報を収集し記録している	146	人数 144 98.6%	25 100.0%	39 100.0%	51 98.1%	29 96.7%
	g 入院歴・既往歴について把握し必要に応じて記録している	146	人数 143 97.9%	25 100.0%	39 100.0%	50 96.2%	29 96.7%
	h 口腔内環境（歯のはえ方、虫歯・歯周病、口腔内衛生）*について把握し記録している	145	人数 131 90.3%	23 92.0%	37 94.9%	48 92.3%	23 79.3%
2. 身体機能	a 粗大運動発達の段階（定頭、座位、立位、歩行）を把握している。	140	人数 118 84.3%	24 100.0%	37 97.4%	44 88.0%	13 46.4%
3. 栄養評価	a 食事摂取量の把握と記録がされている（提供量の何割程度摂取できているか）	141	人数 123 87.2%	25 100.0%	37 97.4%	44 88.0%	17 60.7%
	b 食事形態の適正化に対する評価が実施されている（食具や食器への対応も含めて）	143	人数 123 86.0%	25 100.0%	37 97.4%	45 88.2%	16 55.2%
	c 食事の観察が実施されている（ミールラウンドの実施）	144	人数 123 85.4%	23 92.0%	35 92.1%	46 88.5%	19 65.5%
	d 食事の観察に管理栄養士・栄養士が参加している	141	人数 117 83.0%	21 87.5%	33 89.2%	44 86.3%	19 65.5%
	e 食事内容が把握・記録されている（食事評価）	144	人数 124 86.1%	25 100.0%	34 89.5%	45 86.5%	20 69.0%
	f 特定の栄養素の過不足の把握と記録がされている（好き嫌いもしくは障害特有の理由によっておこる過不足を把握している）	145	人数 123 84.8%	22 88.0%	36 94.7%	44 84.6%	21 70.0%
	g 栄養状態に影響を及ぼすような既往症等の記録がされている	145	人数 134 92.4%	25 100.0%	38 100.0%	47 90.4%	24 80.0%
4. 摂食機能**	a 食事中の姿勢・体位について状況に応じて調節している	145	人数 130 89.7%	25 100.0%	38 100.0%	48 92.3%	19 63.3%
	b 食具や食器の使い方やその調整を行っている	144	人数 128 88.9%	25 100.0%	38 100.0%	48 92.3%	17 58.6%
	c 感覚過敏について把握している	144	人数 128 88.9%	24 96.0%	36 94.7%	47 90.4%	21 72.4%
	d 摂食問題に対しその対応策を考え実践している	144	人数 133 92.4%	25 100.0%	37 97.4%	47 90.4%	24 82.8%

表4-3) アセスメント・モニタリングシートⅠ（管理栄養士・栄養士以外）の項目の内容妥当性

大項目	小項目	回答数	全体	障害種別			
				障害児	身体障害	知的障害	精神障害
5. 環境整備	a 家族等から家庭内での様子について情報収集を行っている	145	人数 133 % 91.7%	25 100.0%	37 97.4%	45 86.5%	26 86.7%
	b 家族の療育・支援に対する不安や悩みなどの情報収集することに努めている	145	人数 136 % 93.8%	25 100.0%	37 97.4%	48 92.3%	26 86.7%
	c 家族等による虐待行為の有無を確認している	143	人数 133 % 93.0%	24 100.0%	35 92.1%	49 94.2%	25 86.2%
	d 家族等の相談に対するニーズを把握する努力をしている	145	人数 140 % 96.6%	25 100.0%	38 100.0%	48 92.3%	29 96.7%
	e 家庭での食事環境について把握し記録している	144	人数 134 % 93.1%	24 100.0%	35 92.1%	51 98.1%	24 80.0%
	f 家族が食事の重要性について認識しているかを確認している	144	人数 122 % 84.7%	23 95.8%	34 89.5%	44 84.6%	21 70.0%
	g 経済状況の概要について把握し必要に応じて記録している	144	人数 130 % 90.3%	24 100.0%	35 92.1%	43 82.7%	28 93.3%
6. 成長	a 身長が定期的に計測され記録されている	23	人数 23 % 100.0%	23 100.0%	-	-	-
	b 体重が定期的に計測され記録されている	23	人数 23 % 100.0%	23 100.0%	-	-	-
	c 月齢・月齢標準のKaup指数、ローレル指数、BMIが計算されている	23	人数 22 % 95.7%	22 95.7%	-	-	-
	d 体重変化量（ある期間内の体重の増加・減少）が把握されている	23	人数 23 % 100.0%	23 100.0%	-	-	-
	e 定額・座位・萌芽等月齢相当の発育状況が記録されている	23	人数 23 % 100.0%	23 100.0%	-	-	-
	f 成長曲線に児の身長・体重をプロットして記録している	23	人数 23 % 100.0%	23 100.0%	-	-	-
7. 環境整備	a 子どもの食行動や食事に対する養育者の不安や悩みについて確認している	22	人数 22 % 100.0%	22 100.0%	-	-	-
	b 療育者が子どもの食事の量や内容について興味関心があるかを確認している	21	人数 21 % 100.0%	21 100.0%	-	-	-
	c 療育者が子どもの食事の重要性について認識しているかを確認している	21	人数 21 % 100.0%	21 100.0%	-	-	-

表4-4) アセスメント・モニタリングシートI (管理栄養士・栄養士以外) の項目の実施数及び実施率

大項目	小項目	総回答数	全体	障害種別					
				障害児	身体障害	知的障害	精神障害		
1. 身体状況	a 身長・体重等の計測が定期的に実施され記録されている	145	実施率 実施率 (%)	115 81.6%	23 92.0%	34 89.5%	44 89.8%	14 48.3%	
	b BMIなどの体格が把握されている	145	実施率 実施率 (%)	92 66.2%	14 56.0%	30 78.9%	36 75.0%	12 42.9%	
	c 体重変化量(ある期間内の体重の増加・減少)が把握されている	145	実施率 実施率 (%)	113 80.1%	22 88.0%	35 92.1%	43 87.8%	13 44.8%	
	d 便秘や下痢などの排便状況を把握している	145	実施率 実施率 (%)	115 81.6%	24 96.0%	33 86.8%	43 87.8%	15 51.7%	
	e 体温に関する日々の記録をしている	146	実施率 実施率 (%)	130 92.9%	22 88.0%	38 100.0%	45 91.8%	25 89.3%	
	f 服薬状況に関する情報を収集し記録している	146	実施率 実施率 (%)	136 96.5%	22 88.0%	38 100.0%	49 100.0%	27 93.1%	
	g 入院歴・既往歴について把握し必要に応じて記録している	146	実施率 実施率 (%)	141 100.0%	25 100.0%	38 100.0%	49 100.0%	29 100.0%	
	h 口腔内環境(歯のはえ方、虫歯・歯周病、口腔内衛生)*について把握し記録している	145	実施率 実施率 (%)	76 53.9%	16 64.0%	22 57.9%	32 65.3%	6 20.7%	
	2. 身体機能	a 粗大運動発達の段階(定頭、座位、立位、歩行)を把握している。	140	実施率 実施率 (%)	103 73.6%	25 100.0%	32 84.2%	36 73.5%	10 35.7%
	3. 栄養評価	a 食事摂取量の把握と記録がされている(提供量の何割程度摂取できているか)	141	実施率 実施率 (%)	87 61.7%	21 84.0%	27 71.1%	32 65.3%	7 24.1%
b 食事形態の適正化に対する評価が実施されている(食具や食器への対応も含めて)		143	実施率 実施率 (%)	93 66.0%	20 80.0%	29 76.3%	34 69.4%	10 34.5%	
c 食事の観察が実施されている(ミールラウンドの実施)		144	実施率 実施率 (%)	86 61.0%	20 80.0%	24 63.2%	33 67.3%	9 31.0%	
d 食事の観察に管理栄養士・栄養士が参加している		141	実施率 実施率 (%)	71 51.1%	15 60.0%	21 56.8%	28 58.3%	7 24.1%	
e 食事内容が把握・記録されている(食事評価)		144	実施率 実施率 (%)	74 52.5%	20 80.0%	19 50.0%	27 55.1%	8 27.6%	
f 特定の栄養素の過不足の把握と記録がされている(好き嫌いもしくは障害特有の理由によっておこる過不足を把握している)		145	実施率 実施率 (%)	75 53.2%	15 60.0%	22 57.9%	29 59.2%	9 31.0%	
g 栄養状態に影響を及ぼすような既往症等の記録がされている		145	実施率 実施率 (%)	114 80.9%	22 88.0%	31 81.6%	42 85.7%	19 65.5%	
4. 摂食機能**		a 食事中の姿勢・体位について状況に応じて調節している	145	実施率 実施率 (%)	119 85.0%	23 95.8%	37 97.4%	43 87.8%	16 55.2%
	b 食具や食器の使い方やその調整を行っている	144	実施率 実施率 (%)	115 81.6%	24 96.0%	36 94.7%	41 83.7%	14 48.3%	
	c 感覚過敏について把握している	144	実施率 実施率 (%)	94 66.7%	22 88.0%	27 71.1%	34 69.4%	11 37.9%	
	d 摂食問題に対しその対応策を考え実践している	144	実施率 実施率 (%)	123 88.5%	25 100.0%	36 97.3%	45 93.8%	17 58.6%	

表4-4) アセスメント・モニタリングシートI (管理栄養士・栄養士以外) の項目の実施数及び実施率

大項目	小項目	総回答数	全体	障害種別			
				障害児	身体障害	知的障害	精神障害
5. 環境整備	a 家族等から家庭内での様子について情報収集を行っている	145	実施率 111 実施率 (%) 78.7%	25 100.0%	37 97.4%	27 55.1%	22 75.9%
	b 家族の療育・支援に対する不安や悩みなどの情報収集することに努めている	145	実施率 127 実施率 (%) 90.1%	25 100.0%	35 92.1%	47 95.9%	20 69.0%
	c 家族等による虐待行為の有無を確認している	143	実施率 111 実施率 (%) 79.3%	23 92.0%	30 78.9%	44 89.8%	14 50.0%
	d 家族等の相談に対するニーズを把握する努力をしている	145	実施率 120 実施率 (%) 86.3%	25 100.0%	37 100.0%	36 73.5%	22 78.6%
	e 家庭での食事環境について把握し記録している	144	実施率 102 実施率 (%) 72.9%	19 76.0%	24 63.2%	48 100.0%	11 37.9%
	f 家族が食事の重要性について認識しているかを 確認している	144	実施率 81 実施率 (%) 57.4%	20 80.0%	22 57.9%	31 63.3%	8 27.6%
	g 経済状況の概要について把握し必要に応じて記録している	144	実施率 87 実施率 (%) 61.7%	19 76.0%	23 60.5%	26 53.1%	19 65.5%
6. 成長	a 身長が定期的に計測され記録されている	23	実施率 11 実施率 (%) 47.8%	11 47.8%	-	-	-
	b 体重が定期的に計測され記録されている	23	実施率 21 実施率 (%) 91.3%	21 91.3%	-	-	-
	c 月齢・月齢標準のKaup指数、ローレル指数、BMIが計算されている	23	実施率 16 実施率 (%) 69.6%	16 69.6%	-	-	-
	d 体重変化量(ある期間内の体重の増加・減少)が把握されている	23	実施率 20 実施率 (%) 87.0%	20 87.0%	-	-	-
	e 定額・座位・萌芽等月齢相当の発育状況が記録されている	23	実施率 20 実施率 (%) 82.6%	20 82.6%	-	-	-
	f 成長曲線に児の身長・体重をプロットして記録している	23	実施率 3 実施率 (%) 13.0%	3 13.0%	-	-	-
7. 環境整備	a 子どもの食行動や食事に対する養育者の不安や悩みについて確認している	22	実施率 23 実施率 (%) 92.0%	23 92.0%	-	-	-
	b 療育者が子どもの食事の量や内容について興味関心があるかを確認している	21	実施率 20 実施率 (%) 95.2%	20 95.2%	-	-	-
	c 療育者が子どもの食事の重要性について認識しているかを確認している	21	実施率 20 実施率 (%) 95.2%	20 95.2%	-	-	-

表5) アセスメント・モニタリングシートI (管理栄養士・栄養士以外)の項目の内容妥当性の比較

	延べ回答数		内容妥当性 (全体)		障害児		身体障害		知的障害		精神障害	
	1回目	2回目	1回目	2回目	1回目	2回目	1回目	2回目	1回目	2回目	1回目	2回目
1. 身体状況												
a 身長・体重等の計測が定期的 に実施され記録されている	200	145	167 83.5%	137 94.5%	27 93.1%	25 100.0%	47 90.4%	38 97.4%	66 84.6%	50 96.2%	27 65.9%	24 82.8%
b BMIなどの体格が把握されて いる	/	145	/	129 89.0%	/	22 88.0%	/	36 92.3%	/	48 92.3%	/	23 79.3%
c 体重変化量(ある期間内の体 重の増加・減少)が把握されて いる	/	145	/	139 95.9%	/	25 100.0%	/	39 100.0%	/	49 94.2%	/	26 89.7%
d 便秘や下痢などの排便状況を 把握している	201	145	156 77.6%	136 93.8%	27 90.0%	25 100.0%	43 82.7%	38 97.4%	62 79.5%	50 96.2%	24 58.5%	23 79.3%
e 体温に関する日々の記録をし ている	201	146	169 84.1%	143 97.9%	26 86.7%	25 100.0%	47 90.4%	39 100.0%	65 83.3%	51 98.1%	31 75.6%	28 93.3%
f 服薬状況に関する情報を収集 し記録している	202	146	191 94.6%	144 98.6%	29 96.7%	25 100.0%	51 98.1%	39 100.0%	75 94.9%	51 98.1%	36 87.8%	29 96.7%
g 入院歴・既往歴について把握 し必要に応じて記録している	202	146	196 97.0%	143 97.9%	29 96.7%	25 100.0%	52 100.0%	39 100.0%	76 96.2%	50 96.2%	39 95.1%	29 96.7%
h 口腔内環境(歯のはえ方、虫 歯・歯周病、口腔内衛生)*につ いて把握し記録している	201	145	175 87.1%	131 90.3%	28 93.3%	23 92.0%	49 94.2%	37 94.9%	67 85.9%	48 92.3%	31 75.6%	23 79.3%
2. 身体機能												
a 粗大運動発達の段階(定頸、 座位、立位、歩行)を把握して いる。	187	140	136 72.7%	118 84.3%	23 85.2%	24 100.0%	46 90.2%	37 97.4%	51 71.8%	44 88.0%	16 42.1%	13 46.4%
3. 栄養評価												
a 食事摂取量の把握と記録が されている(提供量の何割程度 摂取できている)	202	141	166 82.2%	123 87.2%	27 90.0%	25 100.0%	46 88.5%	37 97.4%	67 84.8%	44 88.0%	26 63.4%	17 60.7%
b 食事形態の適正化に対する 評価が実施されている(食具 や食器への対応も含めて)	202	143	165 81.7%	123 86.0%	28 93.3%	25 100.0%	48 92.3%	37 97.4%	66 83.5%	45 88.2%	23 56.1%	16 55.2%
c 食事の観察が実施されてい る(ミールラウンドの実施)	199	144	152 76.4%	123 85.4%	26 89.7%	23 92.0%	44 84.6%	35 92.1%	60 76.9%	46 88.5%	22 55.0%	19 65.5%
d 食事の観察に管理栄養士・ 栄養士が参加している	/	141	/	117 83.0%	/	21 87.5%	/	33 89.2%	/	44 86.3%	/	19 65.5%
e 食事内容が把握・記録が されている(食事評価)	202	144	165 81.7%	124 86.1%	28 93.3%	25 100.0%	46 88.5%	34 89.5%	66 83.5%	45 86.5%	25 61.0%	20 69.0%
f 特定の栄養素の過不足の 把握と記録がされている(好 き嫌いもしくは障害特有の 理由によっておこる過不足 を把握している)	202	145	162 80.2%	123 84.8%	26 86.7%	22 88.0%	44 84.6%	36 94.7%	66 83.5%	44 84.6%	26 63.4%	21 70.0%
g 栄養状態に影響を及ぼす ような既往症等の記録が されている	202	145	176 87.1%	134 92.4%	27 90.0%	25 100.0%	47 90.4%	38 100.0%	70 88.6%	47 90.4%	32 78.0%	24 80.0%
4. 摂食機能**												
a 食事中の姿勢・体位につ いて状況に応じて調節して いる	202	145	158 78.2%	130 89.7%	28 93.3%	25 100.0%	47 90.4%	38 100.0%	63 79.7%	48 92.3%	20 48.8%	19 63.3%
b 食具や食器の使い方やその 調整を行っている	201	144	169 84.1%	128 88.9%	29 96.7%	25 100.0%	49 94.2%	38 100.0%	67 85.9%	48 92.3%	24 58.5%	17 58.6%
c 感覚過敏について把握して いる	200	144	154 77.0%	128 88.9%	26 89.7%	24 96.0%	45 86.5%	36 94.7%	60 76.9%	47 90.4%	23 56.1%	21 72.4%
d 摂食問題に対しその対応 策を考え実践している	202	144	173 85.6%	133 92.4%	29 96.7%	25 100.0%	49 94.2%	37 97.4%	67 84.8%	47 90.4%	28 68.3%	24 82.8%

表5) アセスメント・モニタリングシートI (管理栄養士・栄養士以外)の項目の内容妥当性の比較

	延べ回答数		内容妥当性 (全体)		障害児		身体障害		知的障害		精神障害	
	1回目	2回目	1回目	2回目	1回目	2回目	1回目	2回目	1回目	2回目	1回目	2回目
5. 環境整備												
a 家族等から家庭内での様子について情報収集を行っている	202	145	178	133	29	25	48	37	71	45	30	26
			88.1%	91.7%	96.7%	100.0%	92.3%	97.4%	89.9%	86.5%	73.2%	86.7%
b 家族の療育・支援に対する不安や悩みなどの情報収集することに努めている	202	145	167	136	29	25	44	37	68	48	26	26
			82.7%	93.8%	96.7%	100.0%	84.6%	97.4%	86.1%	92.3%	63.4%	86.7%
c 家族等による虐待行為の有無を確認している	202	143	176	133	29	24	49	35	69	49	29	25
			87.1%	93.0%	96.7%	100.0%	94.2%	92.1%	87.3%	94.2%	70.7%	86.2%
d 家族等の相談に対するニーズを把握する努力をしている	202	145	182	140	29	25	49	38	73	48	31	29
			90.1%	96.6%	96.7%	100.0%	94.2%	100.0%	92.4%	92.3%	75.6%	96.7%
e 家庭での食事環境について把握し記録している	202	144	160	134	28	24	45	35	64	51	23	24
			79.2%	93.1%	93.3%	100.0%	86.5%	92.1%	81.0%	98.1%	56.1%	80.0%
f 家族が食事の重要性について認識しているかを確認している	202	144	170	122	28	23	43	34	66	44	33	21
			84.2%	84.7%	93.3%	95.8%	82.7%	89.5%	83.5%	84.6%	80.5%	70.0%
g 経済状況の概要について把握し必要に応じて記録している	202	144	170	130	28	24	43	35	66	43	33	28
			84.2%	90.3%	93.3%	100.0%	82.7%	92.1%	83.5%	82.7%	80.5%	93.3%
6. 成長												
a 身長が定期的に計測され記録されている	150	23	97	23	27	23	23	/	34	/	13	/
			64.7%	100.0%	93.1%	100.0%	62.2%	/	64.2%	/	41.9%	/
b 体重が定期的に計測され記録されている	151	23	119	23	27	23	32	/	43	/	17	/
			78.8%	100.0%	93.1%	100.0%	86.5%	/	79.6%	/	54.8%	/
c 月齢・月齢標準のKaup指数、ローレル指数、BMIが計算されている	148	23	97	22	25	22	24	/	36	/	12	/
			65.5%	95.7%	86.2%	95.7%	66.7%	/	67.9%	/	40.0%	/
d 体重変化量(ある期間内の体重の増加・減少)が把握されている	150	23	121	23	28	23	32	/	42	/	19	/
			80.7%	100.0%	96.6%	100.0%	86.5%	/	79.2%	/	61.3%	/
e 定顎・座位・萌芽等月齢相当の発育状況が記録されている	147	23	82	23	27	23	21	/	27	/	7	/
			55.8%	100.0%	93.1%	100.0%	58.3%	/	51.9%	/	23.3%	/
f 成長曲線に児の身長・体重をプロットして記録している	142	23	73	23	25	23	18	/	25	/	5	/
			51.4%	100.0%	89.3%	100.0%	51.4%	/	49.0%	/	17.9%	/
7. 環境整備												
a 子どもの食行動や食事に対する養育者の不安や悩みについて確認している	202	22	164	22	29	22	45	/	66	/	24	/
			81.2%	100.0%	96.7%	100.0%	86.5%	/	83.5%	/	58.5%	/
b 療育者が子どもの食事の量や内容について興味関心があるかを確認している	201	21	158	21	29	21	43	/	64	/	22	/
			78.6%	100.0%	96.7%	100.0%	82.7%	/	82.1%	/	53.7%	/
c 療育者が子どもの食事の重要性について認識しているかを確認している	202	21	139	21	28	21	38	/	54	/	19	/
			68.8%	100.0%	93.3%	100.0%	73.1%	/	68.4%	/	46.3%	/

表6) アセスメント・モニタリングシートⅠ（管理栄養士・栄養士以外）の項目の実施数・実施率の比較

	延べ回答者数		実施数・実施率 (全体)		障害児		身体障害		知的障害		精神障害	
	1回目	2回目	1回目	2回目	1回目	2回目	1回目	2回目	1回目	2回目	1回目	2回目
1. 身体状況												
a 身長・体重等の計測が定期的に実施され記録されている	200	145	139 69.2%	115 81.6%	23 79.3%	23 92.0%	38 74.5%	34 89.5%	58 76.3%	44 89.8%	19 47.5%	14 48.3%
b BMIなどの体格が把握されている		145		92 66.2%		14 56.0%		30 78.9%		36 75.0%		12 42.9%
c 体重変化量（ある期間内の体重の増加・減少）が把握されている		145		113 80.1%		22 88.0%		35 92.1%		43 87.8%		13 44.8%
d 便秘や下痢などの排便状況を把握している	201	145	123 61.2%	115 81.6%	22 75.9%	24 96.0%	36 70.6%	33 86.8%	50 65.8%	43 87.8%	15 37.5%	15 51.7%
e 体温に関する日々の記録をしている	201	146	154 76.6%	130 92.9%	24 82.8%	22 88.0%	42 82.4%	38 100.0%	62 81.6%	45 91.8%	25 62.5%	25 89.3%
f 服薬状況に関する情報を収集し記録している	202	146	181 90.0%	136 96.5%	28 96.6%	22 88.0%	47 92.2%	38 100.0%	69 90.8%	49 100.0%	32 80.0%	27 93.1%
g 入院歴・既往歴について把握し必要に応じて記録している	202	146	193 96.0%	141 100.0%	29 100.0%	25 100.0%	48 94.1%	38 100.0%	73 96.1%	49 100.0%	38 95.0%	29 100.0%
h 口腔内環境（歯のはえ方、虫歯・歯周病、口腔内衛生）*について把握し記録している	201	145	116 58.0%	76 53.9%	19 65.5%	16 64.0%	32 62.7%	22 57.9%	49 64.5%	32 65.3%	16 41.0%	6 20.7%
2. 身体機能												
a 粗大運動発達の段階（定頭、座位、立位、歩行）を把握している	187	140	86 43.9%	103 73.6%	18 66.7%	25 100.0%	28 54.9%	32 84.2%	31 41.9%	36 73.5%	8 20.0%	10 35.7%
3. 栄養評価												
a 食事摂取量の把握と記録がされている（提供量の何割程度摂取できているか）	202	141	120 59.7%	87 61.7%	20 69.0%	21 84.0%	37 72.5%	27 71.1%	49 64.5%	32 65.3%	14 35.0%	7 24.1%
b 食事形態の適正化に対する評価が実施されている（食具や食器への対応も含めて）	202	143	121 60.2%	93 66.0%	20 69.0%	20 80.0%	37 72.5%	29 76.3%	49 64.5%	34 69.4%	15 37.5%	10 34.5%
c 食事の観察が実施されている（ミールラウンドの実施）	199	144	86 43.2%	86 61.0%	17 60.7%	20 80.0%	26 51.0%	24 63.2%	35 46.7%	33 67.3%	8 20.0%	9 31.0%
d 食事の観察に管理栄養士・栄養士が参加している		141		71 51.1%		15 60.0%		21 56.8%		28 58.3%		7 24.1%
e 食事内容が把握・記録されている（食事評価）	202	144	111 55.2%	74 52.5%	22 75.9%	20 80.0%	31 60.8%	19 50.0%	45 59.2%	27 55.1%	13 32.5%	8 27.6%
f 特定の栄養素の過不足の把握と記録がされている（好き嫌いもしくは障害特有の理由によっておこる過不足を把握している）	202	145	64 32.3%	75 53.2%	13 44.8%	15 60.0%	18 36.0%	22 57.9%	26 34.7%	29 59.2%	7 17.9%	9 31.0%
g 栄養状態に影響を及ぼすような既往症等の記録がされている	202	145	132 65.7%	114 80.9%	22 75.9%	22 88.0%	34 66.7%	31 81.6%	52 68.4%	42 85.7%	23 57.5%	19 65.5%
4. 摂食機能*												
a 食事中の姿勢・体位について状況に応じて調節している	202	145	111 55.2%	119 85.0%	22 75.9%	23 95.8%	34 66.7%	37 97.4%	43 56.6%	43 87.8%	12 30.0%	16 55.2%
b 食具や食器の使い方やその調整を行っている	201	144	147 73.1%	115 81.6%	26 89.7%	24 96.0%	42 82.4%	36 94.7%	59 77.6%	41 83.7%	20 50.0%	14 48.3%
c 感覚過敏について把握している	200	144	75 37.7%	94 66.7%	17 60.7%	22 88.0%	21 41.2%	27 71.1%	31 41.3%	34 69.4%	6 15.0%	11 37.9%
d 摂食問題に対しその対応策を考え実践している	202	144	150 74.6%	123 88.5%	27 93.1%	25 100.0%	40 78.4%	36 97.3%	60 78.9%	45 93.8%	23 57.5%	17 58.6%

表6) アセスメント・モニタリングシートⅠ（管理栄養士・栄養士以外）の項目の実施数・実施率の比較

	延べ回答者数		実施数・実施率 (全体)		障害児		身体障害		知的障害		精神障害		
	1回目	2回目	1回目	2回目	1回目	2回目	1回目	2回目	1回目	2回目	1回目	2回目	
5. 環境整備	a 家族等から家庭内での様子について情報収集を行っている	202	145	147 73.9%	111 78.7%	28 96.6%	25 100.0%	40 78.4%	37 97.4%	56 74.7%	27 55.1%	22 55.0%	22 75.9%
	b 家族の療育・支援に対する不安や悩みなどの情報収集することに努めている	202	145	145 72.9%	127 90.1%	27 93.1%	25 100.0%	39 76.5%	35 92.1%	56 74.7%	47 95.9%	22 55.0%	20 69.0%
	c 家族等による虐待行為の有無を確認している	202	143	152 76.0%	111 79.3%	26 89.7%	23 92.0%	42 82.4%	30 78.9%	56 74.7%	44 89.8%	25 62.5%	14 50.0%
	d 家族等の相談に対するニーズを把握する努力をしている	202	145	176 88.0%	120 86.3%	29 100.0%	25 100.0%	46 90.2%	37 100.0%	68 90.7%	36 73.5%	30 75.0%	22 78.6%
	e 家庭での食事環境について把握し記録している	202	144	82 41.0%	102 72.9%	20 69.0%	19 76.0%	21 41.2%	24 63.2%	32 42.7%	48 100.0%	9 22.5%	11 37.9%
	f 家族が食事の重要性について認識しているかを確認している	202	144	75 37.7%	81 57.4%	20 69.0%	20 80.0%	19 37.3%	22 57.9%	29 38.7%	31 63.3%	7 17.5%	8 27.6%
	g 経済状況の概要について把握し必要に応じて記録している	202	144	126 63.0%	87 61.7%	20 69.0%	19 76.0%	31 60.8%	23 60.5%	44 58.7%	26 53.1%	29 72.5%	19 65.5%
6. 成長	a 身長が定期的に計測され記録されている	150	23	53 34.0%	11 47.8%	11 39.3%	11 47.8%	11 28.9%	/	21 38.9%	/	10 32.3%	/
	b 体重が定期的に計測され記録されている	151	23	100 64.1%	21 91.3%	22 78.6%	21 91.3%	27 71.1%	/	38 70.4%	/	12 38.7%	/
	c 月齢・月齢標準のKaup指数、ローレル指数、BMIが計算されている	148	23	54 35.1%	16 69.6%	15 53.6%	16 69.6%	13 35.1%	/	21 39.6%	/	5 16.1%	/
	d 体重変化量（ある期間内の体重の増加・減少）が把握されている	150	23	95 61.7%	20 87.0%	21 75.0%	20 87.0%	25 67.6%	/	36 67.9%	/	12 38.7%	/
	e 定額・座位・萌芽等月齢相当の発育状況が記録されている	147	23	40 26.7%	20 82.6%	16 59.3%	20 82.6%	10 27.0%	/	13 25.5%	/	1 3.3%	/
	f 成長曲線に児の身長・体重をプロットして記録している	142	23	4 2.7%	3 13.0%	3 11.1%	3 13.0%	0 0.0%	/	1 1.9%	/	0 0.0%	/
7. 環境整備	a 子どもの食行動や食事に対する養育者の不安や悩みについて確認している	202	22	104 52.3%	23 92.0%	27 93.1%	23 92.0%	27 52.9%	/	38 50.7%	/	12 30.0%	/
	b 療育者が子どもの食事の量や内容について興味関心があるかを確認している	201	21	92 46.2%	20 95.2%	25 86.2%	20 95.2%	22 43.1%	/	35 46.7%	/	10 25.0%	/
	c 療育者が子どもの食事の重要性について認識しているかを確認している	202	21	75 37.7%	20 95.2%	20 69.0%	20 95.2%	19 37.3%	/	29 38.7%	/	7 17.5%	/

表7-1) アセスメント・モニタリングシートⅠ（管理栄養士・栄養士以外の専門職種）の選定項目

大項目	小項目
1. 身体状況	a 身長・体重等の計測が定期的実施され記録されている
	b BMIなどの体格が把握されている
	c 体重変化量（ある期間内の体重の増加・減少）が把握されている
	d 便秘や下痢などの排便状況を把握している
	e 体温に関する日々の記録をしている
	f 服薬状況に関する情報を収集し記録している
	g 入院歴・既往歴について把握し必要に応じて記録している
	h 口腔内環境（歯のはえ方、虫歯・歯周病、口腔内衛生）*について把握し記録している
2. 身体機能	a 粗大運動発達の段階（定頸、座位、立位、歩行）を把握している。
3. 栄養評価	a 食事摂取量の把握と記録がされている（提供量の何割程度摂取できているか）
	b 食事形態の適正化に対する評価が実施されている（食具や食器への対応も含めて）
	c 食事の観察が実施されている（ミールラウンドの実施）
	d 食事の観察に管理栄養士・栄養士が参加している
	e 食事内容が把握・記録されている（食事評価）
	f 特定の栄養素の過不足の把握と記録がされている（好き嫌いもしくは障害特有の理由によっておこる過不足を把握している）
	g 栄養状態に影響を及ぼすような既往症等の記録がされている
4. 摂食機能	a 食事中の姿勢・体位について状況に応じて調節している
	b 食具や食器の使い方やその調整を行っている
	c 感覚過敏について把握している
	d 摂食問題に対しその対応策を考え実践している
5. 環境整備	a 家族等から家庭内での様子について情報収集を行っている
	b 家族の療育・支援に対する不安や悩みなどの情報収集することに努めている
	c 家族等による虐待行為の有無を確認している
	d 家族等の相談に対するニーズを把握する努力をしている
	e 家庭での食事環境について把握し記録している
	f 家族が食事の重要性について認識しているかを確認している
	g 経済状況の概要について把握し必要に応じて記録している
6. 成長 (障害児)	a 身長が定期的計測され記録されている
	b 体重が定期的計測され記録されている
	c 月齢・月齢標準のKaup指数、ローレル指数、BMIが計算されている
	d 体重変化量（ある期間内の体重の増加・減少）が把握されている
	e 定頸・座位・萌芽等月齢相当の発育状況が記録されている
	f 成長曲線に児の身長・体重をプロットして記録している
7. 環境整備 (障害児)	a 子どもの食行動や食事に対する養育者の不安や悩みについて確認している
	b 療育者が子どもの食事の量や内容について興味関心があるかを確認している
	c 療育者が子どもの食事の重要性について認識しているかを確認している

表7-2) アセスメント・モニタリングシートⅡ（管理栄養士・栄養士）の選定項目

大項目	小項目
7. 食事の把握	a 自宅を含めた食事摂取量を概ね把握している
	b 適正な食事形態について把握している
	c 食事摂取時の介助について把握している（介助方法 食具・食器の調整）
	d 食事内容の偏りについて把握している（好き嫌い）
	e 食事の回数・時間について把握している
	f 食事環境の調整について把握している
	g 水分の摂取方法・摂取量について把握している
8. 栄養量の把握	a 個別の必要栄養量について算出ができています
	b 平均的な摂取栄養量について把握できています
	c 好き嫌いもしくは疾患が理由となる特定の栄養素の過不足について把握できています
	d 水分の必要量を把握できています
9. 栄養評価	a 身長・体重等の身体計測の継続的な評価と記録をしている
	b 体格からエネルギー・たんぱく質の過不足評価をしている
	c 食事や食品の偏りから不足する栄養素について把握ができています
	d 消化・吸収・代謝の状況について概ね把握している（消化器・代謝性の合併症等について把握ができています）
	e 発熱や下痢といった低栄養のリスクとなる症状・徴候を把握している
	f 脱水のリスクについて把握している（飲水方法、下痢・発熱の有無）
	g 栄養評価に関することが記録されている
10. 栄養介入	a エネルギーの過不足に対して補給量の調整を実施もしくは指導している
	b 特定の栄養素の過不足に対して補給量の調整を実施もしくは指導している
	c 摂食・嚥下機能に合わせて食事形状を調整もしくは指導している
	d 水分摂取の方法並びに目標摂取量について調整・指導している
	e 偏食等の食事の偏りについて調整・指導している
	f 発熱や下痢といった身体状況時の対応について調整・指導している
	g 食の楽しみに向けての対応や相談を行っている（外食相談やイベント参加等時の対応について）
	h 栄養補助食品や調理器具などの紹介を行っている
	i 養育者や介護者の食事負担軽減に向けて助言提案を行っている
	j 医師・看護師等多職種へ栄養摂取状態に関する情報の報告
11. 養育者への指導・報告	a 養育者・介護者に対し状態に応じた食べさせ方の指示・依頼をしている
	b 養育者・介護者に対し連絡ノート等への記録の依頼をしている
	c 養育者・介護者へ栄養摂取状態に関する情報の報告をしている
	d 養育者・介護者へ身体状況の変化についての報告の依頼をしている
	e 養育者・介護者へ食事内容の調整や変更協力の依頼をしている
	f 養育者・介護者へ食事摂取に関わる問題についての報告依頼をしている
	g 養育者・介護者へ食事や栄養状態にかかわる問題のついて個別に相談に応じることができるという情報の提示